

第9回アジア地域ファンド・パスポート合同委員会バーチャル会合 2021年4月22日

アジア地域ファンド・パスポート（以下、パスポート）合同委員会（以下、JC）は、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の継続的なリスクとこれに対する懸念のため、2021年4月22日、バーチャル形式で第9回の会合を開催した。会合は韓国金融委員会（以下、FSC）と韓国金融監督院（以下、FSS）が議長として主催し、オーストラリア、日本（副議長）、ニュージーランド、タイの代表者が出席した。

パスポートの進捗

2020年末に韓国がパスポートの導入を達成して以降、現在、全てのJCメンバーにおいて、自国でパスポートへの登録を希望するファンドからの登録申請と、海外のパスポートファンドからの参入申請を受け付ける準備が整っている。

COVID-19による様々な困難にかかわらず、JCはパスポートに対する業界の認知度を踏まえつつその促進に努めてきており、これを今後も継続していく。さらに、パスポートの公式ウェブサイト（<https://fundspassport.apec.org>）上では関心のあるファンドオペレーターに対して不可欠な情報と最新の進展を提供し続ける。

また、JCは、将来のパスポートの計画と戦略的方向性に関する考えを共有し、協力覚書（以下、MoC）の6.2(d)に基づくパスポートの枠組みのレビューに向けたアプローチに関する議論を開始した。

次回会合

COVID-19を巡る不確実性を考慮し、JCの次回会合は2021年下半期にバーチャル形式で開催される予定。

背景

2016年4月にオーストラリア、日本、ニュージーランド、韓国が、2016年6月にはタイがMoCに参加した。MoCは2016年6月に有効となり、これに基づき、パスポートの効果的な実施と運用を監督するためにJCが設立された。

APEC財務大臣会合を経て設立されたパスポートは、リテール投資家に対し、投資ファンドのクロスボーダーの販売を可能にし、投資家保護のための効果的な法規制を維持しつつ、より多くのファンドの選択肢を与えることで、投資家に対してより多くの利益をもたらすことを意図している。また、パスポートは、地域の金融市場及びファンド業界の能力、専門性そして国際競争力を強化することも目的としている。

（以上）